



末吉小だより

横浜市立末吉小学校
学校だより

令和5年 3月号

「いきているあいだは どうしちゃおう」ノート

校長 高山 和宣

1、2年生が花育活動で卒業生や新入生のためにと花壇に植えた花の球根から、緑の芽が青さを増して伸びてきています。

三寒四温と言われますが、その通り暖かい日が少しずつ増え、季節の移り変わりを感ずることが出来ます。新芽をどんどん膨らませている花々は春を今か今かと待っているようです。

先日の授業参観では多くの保護者の皆様に子どもたちの様子をご覧いただき、本当にありがとうございました。6年生はこのあと3月3日(金)が参観日となりますが、1年生から5年生までは、どの児童もこれまで一年間積み上げてきた力が発揮できるようにと、一生懸命に取り組んでいたと思います。手を挙げて発言に向かう姿やしっかりと自分の意見を言う姿などの主体的に取り組む姿から子どもたちの成長を感じています。この時期、子どもたちは学習や活動のまとめをするだけでなく、期待感をもって新しい年度に向かう準備を始めています。

先日、朝会で子どもたちに、作家ヨシタケシンスケさんの「このあとどうしちゃおう」という話を紹介しました。「こないだ おじいちゃんが しんじやった」という男の子の話からはじまる次のような絵本です。

おじいちゃんが亡くなってしまった後に、おじいちゃんの部屋を掃除していると一冊のノートが出てきます。ノートの表紙には「このあと どうしちゃおう」と書かれています。ノートを開くとおじいちゃんが亡くなった後の天国の様子やその後のおじいちゃんの予定、或いは天国で会いたいいろいろな神様のことなど楽しいことがたくさん書かれていました。男の子は「おじいちゃんは なんだかたのしそうだけど ほんとうは しぬのが こわかったんじゃないかな だから こんなノートをかいたんじゃないかな」などあれこれと考えを広げていきました。そして、自分もおじいちゃんと同じノートをつくってみようと考えました。しかし、考えているうちに、今、自分が生きている間にやりたいことがいっぱいあることに気付きます。そして、男の子は「いきているあいだは どうしちゃおう」ノートに自分の夢や希望を書こうと思いつきました。

楽しさや幸せは、人と比べるものではなく自分が感じるものであること、そして世界に一つだけの自分として、希望をもってよりよい未来をつくって行こうとする姿が学びの姿であることを話しました。これからずっと未来をつくっていく子どもたちが、学ぶということをこんなふうに感じられるようになってくれるといいなあと思っております。

本年度1年間、子どもたちが学び続けてこられたのは、ご家庭での温かいご理解とご協力、そして地域の方のご尽力があったからこそと思っております。改めて、感謝申し上げます。